

# しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

34

## 伝えたい 授産品の背景

つながりを大切に

### ハートフルコーナー 支援隊 クローバー 代表 小川 園枝

おがわ そのえ

小川 園枝

クローバーは「ハートフルコーナーinしめ」の販売ボランティアで構成される団体で、令和4年に設立されました。ハートフルコーナーinしめは、志免町ボランティア連絡協議会が開催する授産品の販売会です。障がい者福祉の啓発と障がい者の就労支援を目的に、障がいのある方が作られた製品を毎月1回シーメイトのエントランスホールで販売しています。



### ハートフルコーナーinしめの 運営をお手伝い

クローバーは、志免町社会福祉協議会が実施していた障がい者デイサービスの外出支援ボランティアとして関わっていた皆さんが中心となって設立されました。このデイサービス事業が令和4年度で終了することになったため「せっかく集まっているから活動する機会がなくなるのはもったいないね。ハートフルコーナーinしめの販売をお手伝いしようか」という話になり、クローバーを立ち上げ、志免町ボランティア連絡協議会（ボラ連）の加盟団体になったと聞いています。現在の会員数は15名です。私は前任者から代表を引き継いで2年目となり、ようやく会員の皆さんの顔とお名前が把握できるようになりました。

### 人とのご縁、つながりを大切に 多くの活動に参加

私自身はクローバー以外に「志免レクメイト」として地域の公民館等に出向くレクリエーションの活動をしたり、「志免町としょかん友の会」や「しめ歴史の会」の会計を担っています。

昭和48年からずっと志免町で暮らしていて、子育てをしていた20代の頃から地域活動やボランティア活動に関わってきました。志免町婦人会（平成14年に解散）の支部長をお願いされたことをきっかけに、町主催の夏祭りや成人式といった様々な行事の準備や運営をお手伝いしました。活動を通じて町の行事や志免町のことをよく知ることができ、面白く楽しんで参加していました。

また一緒に活動する人たちと会話をしてお互いに顔を覚え、町で出会ったときには声をかけ合う関係になりました。そのおかげで、志免町をふるさとだと感じられるようになっていったのだと思います。

### 運営の連絡はLINEグループで 参加しやすい仕組み作り

ハートフルコーナーinしめの販売は、クローバーだけでなく、ボラ連加盟団体の皆さんと協力して当番制で行っています。毎月1回の販売では品物の受け渡しから支払い、販売終了後には各授産施設ごとの売上計算まで行います。計算や品物の補充に慣れている会員の方もいるので活動は順調です。

クローバーが販売を担当する場合、主にグループ

LINEを使って会員の皆さんへ連絡し、LINEを使っていない方には個別連絡をします。販売日にお手伝いできる人を募ると「行きます」と返事をくださる方が多くいらっしゃいます。午前と午後に各2名いれば販売会を運営できますが、だいたい3~4名の手が挙がり、皆さんに参加してもらいます。



▲ 毎月第4水曜日に開催！（シーメイトにて）



## 授産品の購入が支援に繋がるとは 施設見学で気付いたこと

ハートフルコーナーinしめの売り上げは、障がい者の方々に還元され、就労支援につながっています。皆さんが授産品を購入することで施設で働く方たちに賃金が払われ、生きがいを応援できる活動です。

ボラ連の加盟団体では授産施設の見学を行っています。習ったことを自分の技術にして丁寧に一生懸命働いている姿はとても素晴らしいと感動しました。その姿を見て「力になりたい、一人ではできないから、ハートフルコーナーinしめの売り上げをのばそう！」と思いました。

また、就労の現場を実際に見学することで、障がいのある方たちの就労や暮らしを支援している方々の存在も知ることができました。授産品の販売を通じて、少しでも障がい者の福祉の向上や啓発につなげたいという思いでいっぱいです。



## 小さな活動を通じて、人の思いが つながるやさしい町へ

ひとつひとつは小さな地域活動やボランティア活動でも、人と人とのコミュニケーションが生まれ、

新しいつながりができることが、こうした地域活動やボランティア活動の良さだと思います。

また、福祉のボランティア活動といっても、さまざまな分野・テーマがあり、その活動に対するそれぞれの団体の思いを共有しながら活動できる機会がもっと広がるとよいですね。

授産品の購入者には、売り上げが障がい者の賃金につながり、施設のサポートになることを伝え、活動を支援したことがきっかけで、製品の背景や関わる人たちの活動を知ってもらえたらいいですね。

また、「物を買う」という日々の営みの中で、いつもの買い物を1つでも2つでも授産品の購入に替えるだけで、社会の中に支え合いやつながりを生み出せることを知ってもらいたいです。日常生活の中でつながりを大事にする人、細やかに気配りができる人が増えて、もっとやさしい町になると良いと思います。



▲ ハートフルコーナーinしめで購入できる授産品



## 取材を終えて

「物を買う」という日常的な行いが、団体への応援や社会貢献につながっています。授産品の背景も一緒に知ってほしいと思いながら活動しているクローバーの皆さんを応援しています。

